



# キバリオパト!



ロビン・パトリク  
Patrick Robison  
2008年8月から国際交流員として、  
浦添市役所国際交流課に配属される。  
米国アイダホ出身。

文・英訳：ロビン・パトリク

## 砂漠の中の命!

5月に家族と友達に会うために、一時的に帰国しました。アメリカでは、母国や自分の文化について色々考える機会になりました。故郷から離れて住んでみると、帰郷するたびに新しい見地から味わえるようになっていきます。

今回アメリカ西部の大部分を占める高地砂漠の厳しい環境に感動しました。飛行機に乗って上空から見るネバダ州やユタ州は、果てしない荒地が水平線まで広がっています。西から東へ渡るにつれて集げた山々は亀裂の入った平原や河川敷に主役を譲り、住んでいる人はほとんど見かけません。この地域は英語の「No Man's Land」・「無人地帯」という表現にぴったりの場所です。19世紀の西部開拓時代、ほとんどの開拓者は肥沃な土地であるカリフォルニア州やオレゴン州を目指して、この砂漠をできるだけ速く渡るよう駆け抜けました。

この広い砂漠をほろ馬車で渡ることは想像できません。本になった開拓者の日記などによれば、とてもつらくて多くの人間の命を奪う旅でした。横断するには危険を伴い、開拓者がこの容赦のない地域を回避する経路を一生懸命探していた気持ちが分かります。今日でもエアコンの効いた車や飛行機でアメリカの砂漠を渡るたび、喉がひどく渇いた状態になります。

上記で砂漠の悪口をしているように聞こえるかもしれませんが、実際の気持ちは違います。私は砂漠の端で育ち、その厳しい環境の中で安らぎを見つけました。砂漠の乾いた暑さと沈黙が私を癒してくれます。稀に降る夕立に濡れたセージブラシの匂いは私のもっとも好きな香りかもしれません（そうですよ、砂漠でも時々雨が降ります!）。ぱっと見たら死んでいると思う砂漠でも実は全然死んでいません。砂漠の環境に適応している植物や動物も、色々な種類が生息しています。砂漠を最初に見たときは「厳しい環境だな」という印象を受けるかもしれませんが、付き合いが深くなればなるほど、その繊細な美しさが見えてきます。次回の帰郷でもこの見慣れた景色に再会するのを楽しみにしています。

(1) セージブラシ: *Artemisia tridentata*, ヨモギ属。低木状で、セージのようなさっぱりした香りを放ちます。アメリカの高地砂漠に広く分布しています。

## High and Dry

In May I returned home for a visit with my family and friends. Being in the United States afforded me the chance to reflect on many aspects of my homeland and culture. I find that spending time away from the place where I grew up allows me to see and appreciate it in a new light each time I go back.

This time I found myself marveling at the severity of the high desert climate which constitutes much of the western U.S. As I flew over the states of Nevada and Utah, below me stretched hundreds of kilometers of unbroken wasteland in all directions. Burned mountains alternate with cracked plains and dry riverbeds in a landscape primarily devoid of human settlement. This area is a real no man's land, a place where few pioneers wanted to stay when crossing on their way to more fertile parts of present-day California, Oregon, and Washington back in the 1800's.

I can hardly imagine what it must have been like to cross this vast desert in a covered wagon. From all accounts, it was an incredibly harsh journey which claimed the lives of many who attempted it. It is no surprise that many pioneers searched for a route which would allow them to circumvent this forbidding territory. Even today, crossing the American desert in an air-conditioned car or airplane is enough to overwhelm me with thirst.

Though I may come off as defaming the desert in the paragraphs above, my actual feelings on the subject are quite different. I grew up on the edge of a desert and find a certain comfort in its austerity. The dry heat and silence fill me with calm. The clean scent of wet sagebrush after a rare rain shower is one of my favorite smells on Earth (yes, sometimes it rains in the desert!). Upon closer inspection, the supposedly barren desert isn't dead at all - a variety of well-adapted plants and animals thrive in this climate. The desert may seem somewhat intimidating at first, but over time one learns to appreciate its subtle beauty. I look forward to drinking in this familiar landscape again upon my next return.



# 浦添市移民史便り

～8月から市内で本格的な  
移民の聞き取り調査を開始～ **第8回**

今回は、市内での移民調査の目的や意義・調査方法などについてお知らせします。市内調査へのご理解とご協力をお願い致します。

## なぜ調査をするのか

市内での移民調査の目的は、移民一人ひとりから体験談や生活史を聞き取ることにあります。移民を体験した個人々人の移民像を復元することにも、浦添市の移民史の全体像を浮かび上がらせることにあります。



予備調査(伊祖自治会)

を学び、現在を見つめ、未来を創造するかけがえのない市民共有の財産として残すことにあります。

こうした移民や出稼ぎの体験記録は、市民の貴重な資産として、またこれから後へ続く移住者への指針として、永久に記録し、保存すべきものでもあります。

移民の歴史は、移民者を架空の人物として終わらせるのではなく、この事実を直視し、なぜ移民をしたのか、なぜ移民しなければならなかったのか、どんな歴史的背景の中で彼らが移民していったのか思いをめぐらす必要があります。そして、各地域に残された先人達の偉大な痕跡を子や孫たちに語り継ぎたいものです。

## 調査の対象者と対象地域は?

今回の調査対象者は、戦前戦後を通して南米のブラジルやアルゼンチン・ペルー・ボリビア、ハワイ・北米などで移民を体験して市内に戻ってきた方々と終戦後、サイパンやテニアンなどの南洋群島や満州・台湾・朝鮮などの植民地から沖縄へ引揚げてきた方々からの聞き取りが中心になります。

戦前戦後を通して直接に移民出稼ぎを体験した方(一次体験者)と当時まだ子供で幼く記憶が十分でない方(二次体験者)、直接移民出稼ぎの体験はないが両親や祖父母などから当時の話を聞いている方(三次体験者)など幅広くお話を聞く予定です。

今回の調査は、ウラシムチユ(浦添出身者)の移民出稼ぎを体験した方を主な調査対象者としていますが、他に市民の方で移民出稼ぎの体験者や祖父母・両親などから移民出稼ぎの話をお聞きしている方の情報も収集しています。

主な調査対象地域は、仲間、安波茶、伊祖、牧港、港川、城間、屋富祖、宮城、仲西、勢理客、小湾、内間、沢岬、経塚、前田、西原、当山、大

平の戦前からの十八大字を対象としています。

## 調査の時期は?

現在、編集事務局では、外務省作成の「海外旅券下付表(パスポートを持って海外へ移民した方々の名簿で明治32年から昭和19年まで)」と「引揚者給付金請求書処理表(一九七〇年代の沖縄県外地引揚者協会浦添支部作成)」を基に、一八大字ごとの国別と住所・氏名を作成し、自治会長さんと老人会の方々からインタビュー(聞き取り)マンント(聞き取り対象者)の抽出作業を5月から6月にかけて予備調査を行っています。



予備調査(仲間自治会)

また、本調査は移民調査ボランティアサークルの協力を得て、今年8月から来年3月までの8カ月にかけて市内十八大字の自治公民館を中心に実施する予定です。

## 調査方法は?

調査の方法は、市内聞き取りカードを用い、基本項目と移住前、移住時、移住後の状況、さらに引揚げ後の状況など5項目に分けて聞き取り調査します。移民の経歴や生活史を順序よく聞き取りし、移民の個人々の移民史が作成できるようにしていきます。

## 調査後の活用計画は?

聞き取り調査で得た情報は、現在字誌の編集を進めている地域やこれから字誌を計画している地域への情報提供とともに、この紙面でお知らせしてまいります。また、来年予定の移住調査と合わせて「証言集」と「ビジュアル版」を発刊し、市民に広く活用していただけるよう計画しています。

## 問い合わせ

浦添市立図書館沖縄学研究室

☎87614946

# ギャラリーてだこ

**作品募集**  
(テーマは自由です)はがきで送ってください!  
切りは毎月12日迄  
〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶1-1-1  
浦添市役所国際交流課  
☎876-1234 (内線2613・2614)

山内 麻利亜(中1)  
西新屋 末侑(6才)  
よなしろ せいま(6才)  
花城 奈苗(12才)  
のそこ ゆめみ(7才)  
長はま はると(8才)